

経口抗がん剤カペシタビン錠処方患者に対する新たな取り組みについて

○長久保久仁子（若松町店）、小野裕子（若松町店）
笹本千香子（第二女子医大通り店）、石塚ひろ美（河田町店）
天田紀子（女子医大通り店）

経口抗がん剤カペシタビン錠は、2003年に手術不能又は再発乳がん（A法）の治療薬として発売されました。その後2007年に手術不能又は再発乳がん（B法）及び結腸がんにおける術後補助化学療法、2009年には治療切除不能な進行・再発の結腸・直腸がんの適用が追加されています。進行・再発大腸がんに対する標準治療であるFOLFOX4（オキサリプラチン＋5-FU＋ロイコボリン）±ベバシズマブ（以下、BV）療法に対してXELOX（オキサリプラチン＋カペシタビン併用療法）±BV療法の非劣勢が証明され、XELOX±BV療法が標準療法のひとつとなりつつあり、保険薬局にもXELOX±BV療法施行中患者の処方箋が持ち込まれるようになってきました。しかし、薬局においてXELOX±BV療法施行中の患者に対し、的確な服薬サポートが十分に行なわれていない現状です。

今回、東京女子医科大学病院の薬剤師協力の下、女子医大エリア4店舗にて、XELOX±BV療法施行中患者に対する服薬サポートの方法を検討・実施したので報告いたします。

【目的】

- ・ XELOX±BV療法施行中患者に対する服薬サポートの充実化（適正情報提供、有害事象の発見、有害事象に対する具体的なアドバイス等）
- ・ 薬業連携の強化
- ・ 薬局薬剤師のレベルアップ

【方法】

- ① ミキ薬局東京女子医科大学病院エリア4店舗の薬剤師へのアンケート調査
- ② 服薬サポートの方法の検討・実施
 - ・ 東京女子医科大学病院の外来化学療法担当薬剤師との勉強会の開催
 - ・ 薬局薬剤師（担当制）によるカペシタビン処方患者に対するチェックシートを用いた服薬サポートを実施

【結果】

- ① ミキ薬局東京女子医科大学病院エリア4店舗の薬剤師へのアンケート結果
 - ・ 方法②実施前と実施2ヵ月後のアンケート結果を比較
- ② 服薬サポートの実施
 - ・ チェックシートの作成
 - ・ 服薬サポートの方法の決定
 - ・ 定期的な検討会の開催
- ③ チェックシートの有用性の検討

【考察】

薬局薬剤師は処方箋からある程度の治療背景を把握しなくてはなりません。より患者情報を知るためには患者本人から聞き取る以外に方法がないため、がん患者への服薬サポートにおいては、告知の問題や癌化学療法のレジメンなどを患者本人から直接聞き取ることは極めて困難であり、的確な服薬サポートの実施が行なわれていませんでした。病院薬剤師から情報を得ることや病院薬剤師へ相談しやすい環境を作ることによって薬局薬剤師は自信を持ってサポートすることができるのではないのでしょうか。また薬局薬剤師がレジメンを理解したうえで服薬サポートを行なうことは、患者様とのコミュニケーションにおいても有効ではないのでしょうか。今後、他の経口抗がん剤を含めた薬業連携の強化・確立を検討していきたいと考えます。